

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

AYA 世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の
提供方法の開発と実用化に関する研究

高校教育支援の好事例集の作成

研究分担者 小澤美和 聖路加国際病院 小児科医長

研究要旨：本研究では、高校生がん患者への治療と学業の両立支援が、医療体制・学校体制を問わずに実現できることを目指して、多様な好事例集の作成を行う。3年目である令和3年度は、初年度のアンケート協力施設の内、インタビュー協力の意向を示した施設から収集した好事例から、好事例集を作成した。

森 麻希子 埼玉県立小児医療センター
血液・腫瘍科 医長
前田尚子 独立行政法人国立病院機構名古屋医療
センター 小児科 医長
栗本景介 名古屋大学医学部附属病院 先端医療
開発部 先端医療・臨床研究支援センター 助教

A. 研究目的

2020年度、文科省の「学校基本調査」によると、高校進学率は、98.8%と発表された。ほとんどの中学生が高校教育を受けている現在、高校生がん患者の療育中の教育の中断は、彼らの治療意欲や治療後の学校生活での集団適応に影響を与えている。高校生がん患者にとって、小中学教育と同様に、治療と両立できるための教育システム、教育環境の一層の充実が必須である。

思春期世代のがん患者の治療の集約化は困難で、さまざま施設・診療科に存在することから、本分担研究では、多様で具体的な好事例を収集し、好事例集を作成する。各施設での資源を利用した高校教育支援を実現化するための資料とすることを目的とする。

B. 研究方法

1. 好事例集作成

日本小児がん研究グループ (JCCG) 参加の204施設へ初年度に Web 調査を行った。回答が得られた中で、さらに好事例に関するインタビュー調査への同意を得られた施設から収集した好事例を元に、好事例集を作成した。

インタビューを担当した、研究分担者（森、前田、小澤）が、高校教育の継続するための課題解決に有用な事例を抽出し、15 事例を作成した。情報を必要としている支援者にとって、行動につながる情報が伝わる冊子の構成であること重視し、デザイン担当者と打ち合わせを定期的に行った。

2. 行政の好事例

本研究における研究分担者による、教育委員会への現状調査を踏まえ、推奨される行政の体制、役割モデルを作成し、掲載した。

（倫理面への配慮）

好事例集において、個人が特定できないよう修正を加えて作成した。

C. 研究結果

1. 好事例集の工夫

- ① 本冊子に凝らした工夫を説明し、活用方法を明示した。
- ② 教育の専門家でなくとも理解できる用語の統一化を図った。
- ③ 利用者に必要な事例を選択して読んでもらえる工夫。

・各事例に盛り込んだ課題が明確なタイトル
・高校教育の継続にあたり、困難を感じるキーワードがどの事例に盛り込まれているか、一目でわかる表を見開きで掲載でした。

キーワード：

公立/私立、普通科/他、単位取得、転校の有無、対面式授業、遠隔授業、特別支援学校実習・実技科目、高校入試、キャリア教育、心理支援、医療・教育間連携、退院後配慮、教育委員会・行政、成人/小児病棟

④ 表と図の挿入

高校教育継続に有用であった制度、キーパーソン、誰が最初に動くか、が一目でわかるように、表・図を見開きで掲載した。

⑤ 高校生の療養生活がイメージできること、かつ個人が特定できない配慮の上で、事例を作成した。

⑥ 事例のポイント、有用だった情報の解説を載せる欄外を作成した。

とを心掛けて作成した。どの立場の支援者であっても、教育継続のための行動を開始できる冊子にしあがったと考える。

2. 行政の好事例の掲載

教育委員会の協力は、高校教育の継続において必須である。

本研究班の研究分担者による、教育委員会の推奨される役割を15事例の前に掲載することで、行政の政策として取り組む啓発になることを期待した。

3. 高校生活とがん治療の両立のための教育サポートブックとの併用

本研究班の研究分担者により作成された『教育サポートブック』は、患者・家族へのインタビューをもとに、教育者を中心に作成された冊子である。

療養中の高校生の生活現場の視点から作成した本好事例集と『教育サポートブック』を併用していただくことでより理解が深まり、教育継続の実現に役立つと考える。

E. 結論

高校教育とがん治療の両立の実現を目的に、はじめての高校生への支援者にとって、活用できる、長期療養中の高校生の希望に応える好事例集を作成した。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) Yuri Suzuki, Yosuke Hosoya, Kyoko Kobayashi, Yasushi Ishida, Daisuke Hasegawa, Atsushi Manabe, **Miwa Ozawa**. Difference of prevalence of health problems of childhood cancer survivors between comprehensive cohort study and individual clinic visits. The 62th Annual Congress of the Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology 2021. Nov.

2) Unmet needs of adolescent and young adult patients with cancer in communication with medical staff. Yuko Osugi, **Miwa Ozawa**, Akiko Higuchi, Chikako Shimizu, Keizo Horibe. The 62th Annual Congress of the Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology 2021. Nov.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし